

西宮市大谷記念美術館 開館 50 周年記念 特別展

Back to 1972 50 年前の現代美術へ

○ 展覧会概要 ○

会 期：2022（令和 4）年 10 月 8 日 [土] ～12 月 11 日 [日] \*11 月 3 日は無料開館日  
主 催：公益財団法人 西宮市大谷記念美術館 後 援：西宮市、西宮市教育委員会  
協 力：国立国際美術館  
助 成：公益財団法人 花王芸術・科学財団、芸術文化振興基金、公益財団法人神戸文化支援基金  
会 場：西宮市大谷記念美術館 開館時間：10:00～17:00（入館は 16:30 まで）  
休 館 日：水曜日 \*但し 11 月 23 日 [水・祝] は開館、翌 24 日は振替休館  
入 館 料：一般 1,200 円、高大生 600 円、小中生 400 円（税込価格）

○ 展覧会構成 ○ \*\* 出品交渉中の作品を含みます \*\*

「1972 年」という時代

2 月の札幌冬季オリンピック開催をはじめ、5 月沖縄本土復帰、8 月ミュンヘン夏季オリンピック開催、9 月日中国交正常化、10 月パンダ初来日などがあった 1972 年。当時の社会や文化を色濃く反映した作品とともに一年間を振り返ります。

荒川 修作（あらかわ しゅうさく）《ミュンヘンオリンピックのためのポスター》兵庫県立美術館蔵  
粟津 潔（あわず きよし）《人命救助法（人命救助法制作委員会）》国立国際美術館蔵  
永井 一正（ながい かずまさ）《沖縄海洋博覧会》姫路市立美術館蔵  
横尾 忠則（よこお ただのり）《栄光のビートルズフェスティバル（大丸）》国立国際美術館蔵  
W. ユージン・スミス 《水俣》シリーズ 京都国立近代美術館蔵 他

「1972 京都ビエンナーレ」と関西のアートシーン

1972 年は「京都ビエンナーレ」が初めて開催された年です。出品者の多くは「京都アンデパンダン展」で注目された作家たちで、公立の美術館が企画した関西の現代美術の動向を示す意欲的な展覧会として、美術雑誌や新聞でも大きく取り上げられました。同展出品者の作品をはじめ、会場写真や雑誌の特集など展覧会に関する資料を展示することで、当時のアートシーンの再現を試みます。

植松 奎二（うえまつ けいじ）《空間関係構造体 - 樹、人、ロープ I》作家蔵  
郭 徳俊（かく でゆくじゅん）《位相 1972 (A)》京都国立近代美術館蔵  
北辻 良央（きたつじ よしひさ）《作品》1972 年 国立国際美術館蔵  
木村 光佑（きむら こうすけ）《Out of Time》京都市美術館蔵  
野村 仁（のむら ひとし）《重心の移動》東京都現代美術館蔵 他

「具体美術協会」の変遷

具体美術協会は 1954 年に関西を拠点に結成、多くの実験的な試みを行った芸術家集団ですが、1972 年 2 月 10 日、リーダー吉原治良の急逝を受けて同年解散します。現在世界的に評価の確立している具体美術協会ですが、解散時同会に所属した作家の作品などにより、当時の状況を探ります。

白髪 一雄（しらが かずお）《東方浄瑠璃世界》兵庫県立美術館蔵

松谷 武判（まつたに たけさだ）《繁殖のA》作家蔵（当館寄託作品）

元永 定正（もとなが さだまさ）《AKAMAGARI》兵庫県立美術館蔵

吉原 治良（よしはら じろう）《作品A》《作品B》《作品C》大阪中之島美術館蔵 他

### 1972年・現代美術の点景

50年前の当時、既成の枠を越える新たな表現が多方面で繰り広げられました。その中で「もの派」を代表する作家として国内外で注目を浴びた李禹煥、実在と認識の差異や時間の経過などを写真によって観念的に表現した木下佳通代、プラスチック樹脂による多数の風船や巨大な蛾などの具象彫刻を手がけた福岡道雄らの作品を紹介します。

李 禹煥（り うふあん）《刻みより》京都国立近代美術館蔵

木下 佳通代（きのした かずよ）《untitled-a》大阪中之島美術館蔵

福岡 道雄（ふくおか みちお）《蛾2》国立国際美術館蔵 他

### 版画の躍進

1950年代から国際的な版画コンクールが世界各国で開催されるようになり、日本でも1957年に東京国際版画ビエンナーレが始まりました。1970年代には、版画への関心が高まると共に、技法や用いる道具の種類が増え、表現の幅も広がりを見せはじめました。京都や大阪では版画を専門的に扱う画廊が現れ、作品発表の機会も増え始めます。版を用いた新たな表現が生み出され始めた、現代美術としての版画を紹介します。

飯田 善国 / 西脇 順三郎（いいだ よしくに / にしわき じゅんざぶろう）《Chromatopoiema》国立国際美術館蔵

黒崎 彰（くろさき あきら）《星の神話》大阪中之島美術館蔵

高松 次郎（たかまつ じろう）《THE STORY》東京都現代美術館蔵

原 健（はら たけし）《No Focus 72-23・24》京都国立近代美術館蔵 他

### 同時開催 [小企画] 西宮市大谷記念美術館と大谷竹次郎

当館は当地に居住していた実業家大谷竹次郎氏のコレクション、土地建物の寄贈を受けて開館しました。美術館設立の礎となり、50年に渡って親しまれてきた当館の出発点ともいえる大谷竹次郎の近代絵画コレクションを紹介します。

ギュスターヴ・クールベ 《眠る草刈り女 ジャン＝フランソワ・ド・トロワ作の模写》1845年頃

梅原龍三郎（うめはら りゅうざぶろう）《浅間山秋色》1962年

林 武（はやし たけし）《椅子による裸婦》1935年

上村 松園（うえむら しょうえん）《清韻》1943年

横山 大観（よこやま たいかん）《大和心》1941年頃 他

※ 本展覧会開催に際し、SECカーボン株式会社様より、企業版ふるさと納税として多額のご寄付のお申し出をいただいております。感謝を申し上げます。

○ 問い合わせ ○ 西宮市大谷記念美術館 〒662-0952 西宮市中浜町4-38 / Tel. 0798-33-0164 / Fax. 0798-33-1699  
展覧会担当：作花 (sakka@otanimuseum.jp) / 内村 (uchimura@otanimuseum.jp)

# BACK

開館50周年記念特別展  
OSAKI MEMORIAL ART MUSEUM  
NISHINOAMAYA CITY SEUMI

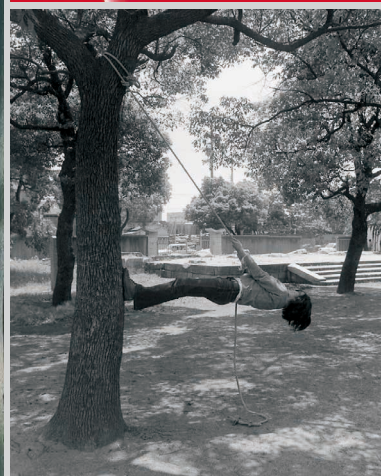
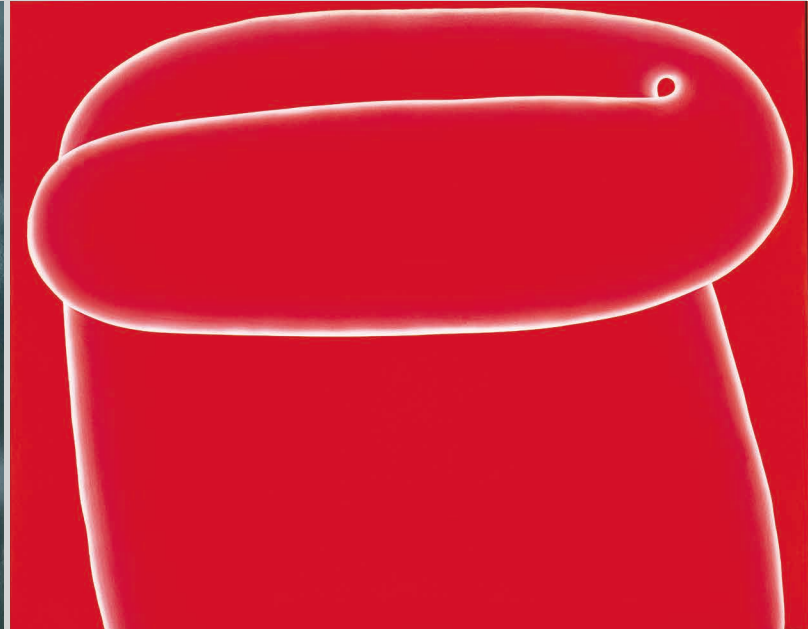
## 50年前の 現代美術へ

# 1972



2 3

1



4 5

# 2022. 10.8<sup>土</sup>-12.11<sup>日</sup>

開館時間:10:00-17:00(入館は16:30まで)

休館日:水曜日●11月23日(水・祝)は開館、11月24日(木)は振替休館

主催:公益財団法人西宮市大谷記念美術館●後援:西宮市、西宮市教育委員会

助成:公益財団法人花王芸術・科学財団、芸術文化振興基金、公益財団法人神戸文化支援基金

協力:国立国際美術館

## 西宮市大谷記念美術館

- 1 福岡道雄《蛾2》国立国際美術館蔵
- 2 吉原英雄《モーニング・コーヒー》(シリーズ「ミラー・オブ・ザ・ミラー ニューヨーク」より)和歌山県立近代美術館蔵
- 3 元永定正《AKAMAGARI》兵庫県立美術館蔵
- 4 植松重二《空間関係構造体一樹、人、ロープ1》(9点組のうちの1点)作家蔵
- 5 池田満寿夫《邪淫の罪【七つの大罪】より》京都国立近代美術館蔵



# BACK

# 1972

開館50周年記念特別展  
OTANI MEMORIAL ART MUSEUM  
NISHINOMIYA CITY

## 50年前の 現代美術へ



入館料：一般 1200(1000)円・高大生 600(400)円  
小中生 400(200)円

※( )内は前売料金(いずれも税込価格) ※11月3日(木・祝)は無料開館日 ※1972年生まれの方は入館無料(要証明書呈示) ※前売券はローソンLOPPI(Lコード52182)または当館にて販売 前売券の販売は10月7日(金)まで ※西宮市内在住の一般の方は1000円(要証明書呈示) ※西宮市内在住65歳以上の方は500円(要証明書呈示) ※コロナカード・のびのびパスポート呈示の小中生は無料 ※心身に障害のある方及び介助者1名は無料(要手帳等呈示)

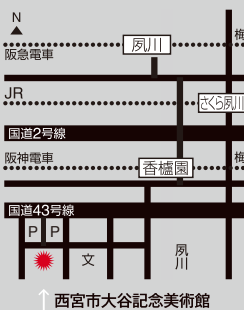
「西宮市大谷記念美術館」は1972年11月3日に開館し、今年で開館50周年を迎えました。まさにその時期から、全国各地で美術館が開館し、多くの人々が美術への渴望を抱き、美術館へと向かいました。豊かさの中で美術が求められ、美術鑑賞が日々の暮らしの中に溶け込んでいったのです。

一方、現代美術もまた、様々な展開を見せていました。1960年代から始まった、美術とは何かを根本的に問い直し、物質そのものよりも観念を重んじる傾向が1970年代にも続いていきます。そしてその作品の主題や制作方法は、敏感に時代を映し出しています。

本展では、1972年に制作された主に関西の現代美術作品を、〈「1972年」という時代〉、〈「1972 京都ビエンナーレ」と関西のアートシーン〉、〈具体美術協会の変遷〉、〈現代美術の点景〉、〈版画の躍進〉の5つのテーマに沿って紹介します。「美術館」はどのような時代に開館したのでしょうか。

さあ、1972年の美術の世界へと旅立ちましょう。

新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため会期の変更、入場制限を行う場合があります。最新の情報は美術館公式HPでご確認ください。

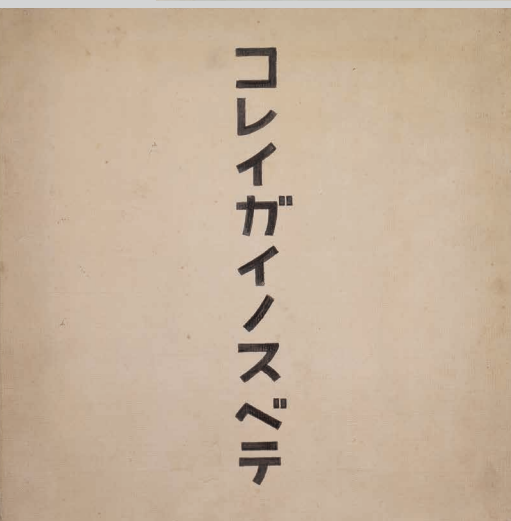


### 西宮市大谷記念美術館

〒662-0952 西宮市中浜町4-38  
TEL0798-33-0164  
<http://otanimuseum.jp>

阪神電車「香櫛園」駅南西徒歩6分  
JR「さくら夙川」駅南西徒歩15分  
阪急電車「夙川」駅南西徒歩18分

美術館専用駐車場は15台分しかありませんので、できるだけ電車など他の交通機関をご利用ください。



## EVENT 関連イベント

- 50周年記念講演会 1  
西宮市大谷記念美術館・初期10年の私的回顧  
講師：熊田司氏(元当館学芸員、前和歌山県立近代美術館館長)  
10月16日(日) 14:00-15:30 定員：70名
- 50周年記念講演会 2  
「具体」以後の関西の美術  
講師：尾崎信一郎氏(鳥取県立美術館整備局 美術振興監)  
10月22日(土) 14:00-15:30 定員：70名
- 50周年記念対談：1972年前後の関西美術  
講師：植松奎二氏(本展出品作家)、越智裕二郎(当館館長)  
10月30日(日) 14:00-15:30 定員：70名
- スライドトーク  
前田豊さんに会う、美術館開館[前夜]よもやま話  
講師：当館学芸員 協力：前田豊氏(元西宮市教育委員会文化課長)  
日時：11月6日(日) 14:00-15:00 定員：50名
- 第183回オータニミュージアムコンサート  
高木和弘 ヴァイオリンコンサート  
出演：高木和弘(ヴァイオリン)、西川ひかり(ピアノ)  
11月23日(水) 14:00-15:00 定員：90名
- ワークショップ  
カタチプリントでお花ハンカチを作ろう  
講師：岡村有利子氏(神戸アートビレッジセンター美術事業担当)  
11月27日(日) 13:30-15:30 定員：9名  
対象：小学生以上 参加費：500円

### お申し込み方法

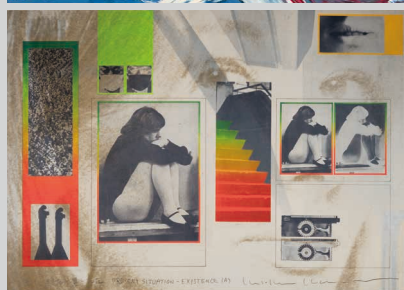
- ※6以外のイベントは参加費無料。いずれも入館料が必要です。
- 123: 9月4日(日)9:00より電話(0798-33-0164)にて受付開始
- 4: 申し込み不要、直接会場までお越しください。
- 5: 10月23日(日)9:00より電話(0798-33-0164)にて受付開始
- 6: 参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を明記のうえ、メール(otaniwa@otanimuseum.jp)または往復ハガキ(〒662-0952 西宮市中浜町4-38)で申し込み。10月27日(木)必着。1回の申し込みで2名まで。詳細は当館のホームページをご確認ください。

### 同時開催：大谷竹次郎とコレクション

当館開館の礎となった近代絵画のコレクションを展示します

### 「おかげさまで50周年」企画

毎日先着30名様に、本展オリジナルのドリップバックコーヒープレゼント!・美術館と同一年の1972年生まれの方は入館無料!(要証明書呈示)・開館記念日の11月3日(木・祝)は無料開館!



- 泉茂《From Silver Foil(72x72シリーズ) No.13》和歌山県立近代美術館蔵
- 平田洋一《コレイガイノスベテ(このキャンパス以外の全ての宇宙空間)》兵庫県立美術館蔵
- 松谷武判《繁殖のA》作家蔵
- 今井祝雄《10時5分》作家蔵
- 白髪一雄《東方浄瑠璃世界》兵庫県立美術館蔵
- 木村光佑《現在位置—存在(A)》和歌山県立近代美術館蔵
- 李禹煥《刻みより(Cut up)》京都国立近代美術館蔵